

副 本

第4回 吉川市総合教育会議録

平成28年8月25日（木）

開会の日時	平成28年8月25日 午後5時00分
閉会の日時	平成28年8月25日 午後6時35分
会議開催の場所	吉川市役所第2庁舎201会議室
<p>会議に出席した構成員の氏名</p> <p>吉川市長 中原 恵人</p> <p>吉川市教育委員会 教育長 染谷 行宏</p> <p>教育長職務代理者 山田 陽一</p> <p>教育委員 神田 美栄子</p> <p>教育委員 西山 祐照</p> <p>教育委員 関根 二三代</p>	
<p>構成員以外の出席した者の職・氏名</p> <p>○市長部局の出席者</p> <p>政策室長 岡田 忠篤</p> <p>政策室主幹 吉田 誠</p> <p>政策室副主幹 島村 善和</p> <p>政策室主査 宮田 匡寿</p> <p>○教育委員会事務局の出席者</p> <p>教育部長 篠田 好充</p> <p>教育部副部長兼教育総務課長 戸張 悦男</p> <p>教育部副部長兼学校教育課長 清水 孝二</p> <p>学校教育課学校支援担当主幹 前田 稔</p> <p>生涯学習課長 宗像 浩</p> <p>スポーツ推進課長 互井 満</p> <p>教育総務課管理係長 城取 直樹</p>	
傍聴人 1人	
<p>会議に付議した事項</p> <p>(1) ゲストスピーカー講演</p> <p>(2) 意見交換</p> <p>(3) その他</p>	

発言の趣旨及び発言者の氏名

○篠田教育部長 ただいまから第4回吉川市総合教育会議を開催いたします。はじめに、傍聴人に入ってください。傍聴人の方はいらっしゃいますか。

[「傍聴人がいます」との報告あり]

それでは、傍聴人を入場させてください。

[傍聴人入場]

議事に入ります前に、傍聴される方に傍聴上の注意を申し上げます。先ほど受付でお配りいたしました傍聴要領をよくお読みいただき、遵守していただきたいと存じます。また、傍聴要領に反する行為をした場合には退場していただくこととなりますので、ご注意ください。

○篠田教育部長 次に、本日の会議録の署名委員を決めたいと存じます。「吉川市総合教育会議運営要綱第5条第3項」の規定により、西山委員、神田委員にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

[「了解」という声あり]

○篠田教育部長 では、お二人に署名委員をお願いいたします。

本日の会議は、ゲストスピーカーによる講演及び意見交換を行います。講師につきましては、株式会社<sup>ウチダ</sup>UCHIDA代表取締役の内田敏一様<sup>うちだとしかず</sup>をお招きしております。内田様には、大変お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

次に、本日の進行についてでございますが、はじめに内田様から次第の演題<sup>ウチダ</sup>にございます、「～未来の子供たちへ～大きな夢に挑む町工場<sup>ウチダ</sup>UCHIDA」について、ご講演をいただいた後に、内田様を交えて意見交換を行わせていただきます。

なお、本日の会議時間は、1時間から1時間半程度で考えております。

それでは、ここから先の進行につきましては、染谷教育長、よろしくをお願いいたします。

○染谷教育長 内田様の紹介につきましては、配布させていただいているプロフィールをご覧ください。本日は、内田様ご自身がこれまでの人生において、今の仕事の道を切り拓いてきたことや子ども達が今後持つべき必要な力は何かについて、また、ご自身が子ども達に教えてきたことなどについて、お話をいただきます。

それでは、内田様、よろしくをお願いいたします。

[講演]

講師 株式会社UCHIDA代表取締役 内田 敏一 様

演題 ～未来の子供たちへ～大きな夢に挑む小さな町工場UCHIDA

○ 内田講師 皆さんこんばんは。株式会社UCHIDAの内田でございます。本日は、普段の講演とは違う教育という観点からの内容ですが、どうぞよろしく願いいたします。私は小さな町工場の2代目の社長を務めていまして、会社のこれまでとこれから、そして、どのような社員が働いているのか、などの話をしていきたいと思えます。

私は、市長と同年代で、埼玉県で生まれました。当時はスーパーカーブームで、『いつか、ランボルギーニに乗りたい。憧れのスーパーカーに乗りたい』という気持ちで今日まで至っています。弊社は、私の父と母によるマネキンの製造会社として始まりました。デパートの屋上にある乗り物や遊園地の乗り物などに使われている強化プラスチックなどの製造に携わっていました。父である先代の社長は、あるきっかけでホンダと繋がる機会があり、そこからカーボンの製造が始まりました。なお、カーボンは鉄よりも強度があり、4分の1の軽さの素材です。私としては、『マネキン屋さんが自分の憧れているホンダに携わっている』という環境下にあったことも、今の仕事に繋がっているのではないかと思います。

小さい頃から図工が得意だったこともあり、車に携わるという夢に向かって進んでいくことになりましたが、今では若者たちが、ホンダのバイクに携われるという夢を持って、弊社に来てくれるようにもなってきています。私は今や3人の父親ですが、最初の子どもは20歳の時で、学校の卒業式前でした。あの頃は、子どもが優先ということもあり、最終的には勘当となり、知人の紹介で横浜に行きました。当時はバブル期だったので、建築ラッシュの時期でした。住み込みで3年半働いた後、バブル崩壊があり、その頃に父から「一緒にやってみないか」と声をかけてもらい、前身会社である、内田工芸に入社することになりました。給料は相当下がりましたし、生活リズムも崩れてしまって、かなり大変でした。そこで、新聞配達のアルバイトも始めましたが、交通事故に遭うなど、大変な目に遭ってしまいました。その時、『二つのことを追いかけるのはあまり良くない』と思い、『父から受け継ぐものが、昔から自分が好きだったことなので、それを限界まで挑戦しよう』と気持ちを切り替えました。

当時のバイクブームは水物であると分かっていましたが、バイクのエアロパーツを売る

ために、ファックス片手に全国に電話をして営業を続けました。利益率は低いのですが、父が計画している会社の売り上げを何とか追い抜こうとして昼夜問わず頑張りました。残念ながら26歳の時に妻が亡くなってしまい、子どもが3人残されることになったのですが、私の母に協力してもらいながら子どもを育て、夜中まで仕事をしていました。そのような毎日を繰り返す中で、売り上げも伸びてきました。父からは、「よくやっているな。今度は、親子で借金を背負って、工場を大きくしないか」と提案され、そこから親子ローンの旅が始まることになりました。

先ほどもお話しした通り、バイクのエアロパーツは当時の流行ものであったため、もっと強い武器を持ちたいと考えていました。そこで、ホンダという大きな取引先があるという強みを生かし、技術の向上を目指しました。今でこそ、カーボンと言うと、航空機など様々な車両等に使われていますが、17年前は、同業他社さんからも「それで大丈夫なのか。借金も背負ってしまっているし、会社が潰れてしまうのではないか」と言われていました。もちろん、参考書もない中でしたが、父や工場長を説得し、新しい機械を取り入れることが出来ました。マニュアルもない中、毎日の失敗がマニュアルになっていきました。そして、毎日作り続けた結果、発注件数も伸びていきました。

海外の会社から、「日本人は、よく設備・技術・人は揃っているから、仕事を下さい。と言うけれど、まずは何が出来るのかを見せてほしい。PRしてよ」ということをよく言われます。そこで、私は、自分が好きだったスポーツカーをローンで購入し、全てをカーボン仕様にしたデモカーを作ることにしました。会社からは場所と材料を提供してもらい、有志の従業員と一緒に毎日のように徹夜で取り組んでいたところ、社長に「会社の仕事としてやっていい」と言われ、デモカーを完成させることが出来ました。その後、ホンダから声がかかり、このデモカーがきっかけでF1の製造に携わることになりました。ただ、この1回限りかもしれないと思い、継続性を求めるために努力をすることにしました。私のような町工場の相手は大手企業しかありません。なおかつ、後発となりますので、小さなものからコツコツと取り組む必要がありました。そこで、実写の2分の1のサイズで車を作ることにしました。とても短い期間の中で作る必要があったため、他の会社さんからは「うちはできない」という声も挙がる中、何とか作る事が出来ました。

このような結果が認められ、他の大手会社からも声がかかるようになりました。とある会社からは、普通はレース車の製造に3か月かかるところを1か月半で製造が出来ないかとお願ひされました。会社の従業員から、「いいじゃないですか、やりましょうよ」と言う

声があり、F1の発注もこなす中でしたが、さらに前に進んでいくことになりました。他の会社からは「絶対に無理だ。出来ない」と言われましたが、1か月半で製造を行い、おまけにそのレース車が大会で優勝し、その大手会社とも取り引きを継続してもらえることになりました。さらに見に行ったレースで、別の大手会社からも短期間でのレース車製造の話があり、これも自分の取り柄だと思い、製造を行った結果、さらに取り引きが増えることになりました。

4年後には、父から「さらに大きな機械を購入しろ」と言われ、父も自分が描く夢に乗ってくれるようになり、会長だった父と一緒に、夢の一つだった航空機への参入を始めることになりました。ところが、航空機業界へのコネは一切ありませんので、従業員一丸となって営業活動等に取り組み、ようやく業界から声がかかるようになりました。私の中では、これから5年後、10年後を見据えた時、新しい知識と技術を学ぶ必要がありました。しかし、日本にはそのような場がほとんどなかったため、海外に行くことを決意します。そこで学んだことは、世界で大切にされているものが「人、環境、設備」であるということだったため、日本に戻ってから、さらなる設備投資を行いました。それが今の会社の場所となります。そして、このような取り組みを積み重ねた結果、経済産業省より「元気なモノ作り中小企業300社」に選んでいただき、「埼玉県知事のとことん訪問」も直接声がかかって実現しました。

社長になって3年目。本来は成果を出さなければいけない年ですが、リーマンショックが起き、4分の1まで売り上げが落ちてしまいました。潰さないように会社を運営する中で、私としては、「このような状況で何が出来るのか」を考える時間が生まれました。「ピンチをチャンスに変える」という言葉を胸に、従業員と一緒に様々なことを学び始めました。私は、「ものづくりで世界に貢献していきたい」という強い思いがありました。量や体力では負けるかもしれませんが、技術なら負けないという気持ちもありましたので、そこで勝負していくことにしました。「何が出来るか、出来ないか」ではなく、「可能性を考え、歩み寄る」という方向で、革新的な部分からUCHIDAの信頼を勝ち取ることを考えました。そのためには、世の中を見なければいけませんので、従業員がそれぞれ歩き回り、様々な情報を得て、共有しました。「業界はどうなのか」、「世の中はどうなのか」、「自分たちの会社のポジションはどうするのか」、そういうことを考えていきました。さらに、具現化していく内容についてビジョンを掲げ、そのためにどのような計画を立てて取り組んでいけばいいのかを話し合いました。

その結果、新たに宇宙分野に取り組んでいくことになりましたが、とある日に海外に行く機会があり、その時に知り合った<sup>ジャクサ</sup>JAXAから声を掛けてもらい、11年続く取り引きが生まれました。後発の会社ですから、他社にはない技術を心掛けています。他にも大手会社が参入する分野において、その隙間に取り組むようにしながら進めています。そのような積み重ねが、いつの日からか、カーボンを活かした最先端技術への参入に繋がっていくことになりました。

弊社が何を目指して進んでいるのかについてですが、全ての精度を高くするために追求していくということになります。これにより、国内からの信頼を得ることが出来ました。なお、カーボンは劣化しないため、自分の作品を後世に遺すことが出来るという観点から、芸術作品にも使われるようになり、現在はそちらの分野にも携わっています。また、盆栽をカーボンで作成する機会がありました。日本ではあまり評価が良くなかったため、海外のコンテストに出品したところ、注目を集め、ランボルギーニ社から声を掛けてもらうことに繋がりました。憧れのランボルギーニ社の本社でプレゼンを行い、さらに親会社の監査に合格することが出来ました。そして、ランボルギーニ社からはさらに新しいことに挑戦しようと言われ、一緒に新しいプロジェクトもスタートすることが決まっています。

現在の社員は45名います。少しずつ社員数を増やしていますが、さらに仲間を増やそうということで、様々な先生や同業者の方と一緒にもっと前に進んでいこうと考えています。さらに、弊社は自動車分野だけでなく、医療や福祉にも携わっていきたいと考えているため、ISOを取得し、記録に残るような活動も進めています。

また、私自身も3年間、京都まで大学に通い、博士号を取得しています。今後の新しい取り組みとしては、3年間、世界を見て回った中で、人様のお役に立ちたいという思いから、医療福祉の分野への参入があり、ここでもカーボンを活用しています。

私の子どもについては、長男が「同じ道を進みたい」と言い始めたため、3代目社長になるためには、「語学・知識・技術」が必要だと考え、海外に留学させました。現在、長男はアメリカのシアトルにあるランボルギーニ社の研究所、長女は日本で働き、次男はドイツに留学しています。

従業員については、若い人がたくさんいて、平均年齢は33歳です。従業員の中には離職期間がある社員もいますが、全員がものづくりが好きという気持ちを持っています。私は、好きなことに携わらせることを重視しています。採用に性別、学歴、前職、経験などは一切気にしていません。それよりも、好きなことに従事してくれる思いを持っている人

で、喜びを分かち合える従業員を採用するようにしています。従業員に対しては、私と一緒に成長していこうという思いから、イベントや海外などに一緒に行ってもらっています。また、従業員には「出来ないことよりも出来ることを考えよう」と伝えています。私の一番の財産は人であると考えていますので、これからも従業員と一緒に頑張っていこうと思います。ご清聴ありがとうございました。

[意見交換]

**○山田教育長職務代理者** 私は、理科教育に携わっていますが、柔軟な発想が大切であると考えています。財産は人であるというお話がありましたが、まさに、人が社会を作っていくのだと思います。様々なご苦勞があったと思いますが、その中でチャレンジすること続けていったことが大変素晴らしいと思いました。今回の話の中に教育に関するキーワードがあるのではないかと思います。

来年の3月までに学習指導要領が変わりますが、そのキーワードは「何を知っているかではなく、何が出来るか」ということであると聞いています。その意味では、内田様はまさにその最先端を行ってらっしゃると思います。教育も指導者が子どもを動かしていくと考えています。

**○西山委員** 夢を諦めないことが、内田様の今に繋がっているのだと思いました。普通は、途中で夢を諦めてしまうと思いますが、内田様は、それを諦めずに発想力と想像力を持ってチャレンジされています。そして、そこには様々な人との出会いがあり、やってみようという気持ちが継続的に生まれたのだと思います。

今の私たちは、諦めてしまうことが多いように思いますが、「出来ないことよりも出来ることをやろう。」という気持ちを持つことがとても大切なことだと思います。人は皆、同じではなく、それぞれ個性を持っていますので、個性を伸ばす環境づくりをしていければ良いと考えています。

**○神田委員** 「夢を持ち続けること」、「諦めない」、「無理と言われることがバネになった」ということが大切であることを学びました。そして、夢に向かってコツコツと努力を重ねることが、周りからの信頼を得ることなのだと思います。特に「今の状態が良い」といっても満足せず、学びに向かう力を今の子ども達にも持ってもらいたいと思いました。

一つ質問があります。社長の原動力は何なのか教えてください。

**○内田講師** 小さい頃から好きなことに拘ってきたことと、弊社は現物の最終形まで携わ



っているため、完成品を見ることが出来るのが大きいと思います。その完成品を見て、さらにより良いものを作って行こうという気持ちになるからです。それが自分を後押ししてくれるのだと思います。

**○関根委員** ものづくりで世界に貢献したいという気持ちがとても伝わるお話でした。教科書や参考書がない中、失敗がマニュアルになったという話が、一步一步成長していく過程になったのだと思います。

内田様から、ぜひ未来への子ども達にメッセージをいただけないでしょうか。

**○内田講師** 今の子ども達は、現状の物に対する興味はあっても、立体物を構築して行こうという気持ちがありません。好きな物が手に入る時代となっていますが、これからの子ども達は、夢を持って、さらに良いものを作れるような子ども達になってほしいと思っています。

**○中原市長** 前回の総合教育会議で来ていただいた先生からは、「一括りで夢と言っても、その中には色々な種類がある。例えば、お金持ちになりたいとか、良い車がほしいなども夢だが、苦しんでいる人たちを救いたいというのは志である」という話がありました。内田様はランボルギーニに乗りたいという思いからここまで来たということですが、私は、それは自分の欲求を満たすためだけに、ここまでやって来たのだとは思っていません。どこかで、自分の技術で社会に貢献して、従業員たちの夢も叶えてあげているのだと思います。そして、それは単なる夢ではなく、志だと思っています。それは、どこで生まれ、どうして生まれたのかを教えてください。

**○内田講師** 私も若い頃は色々諦めたりすることもありましたが、周りの方々にたくさん助けてもらいながら生きてきました。一人で生きていくために、自分自身を培っていかなければならない時もありましたが、そのような時でも必ず周りに助けてくださる方がいらっしゃいました。それがあったからこそ、皆のために何か作りたいという気持ちに繋がっていったのだと思います。私の場合は、それがカーボンでした。これから後、何年社長をやっていくか分かりませんが、次の世代にバトンタッチするまで、これからもたくさんものを作り続けたいと思います。

**○中原市長** 内田様は、これまでの人生で多くの岐路があり、そこで様々な人と出会っていると思います。内田様にとって、人との出会いとはどのようなものなのでしょうか。

**○内田講師** 言葉で伝えることは見透かされてしまうと考えています。追求しているものを一生懸命形にすれば、必ず相手に伝わると考えています。その結果が、今の様々な出会

いや取り引きなどに繋がっています。

○**中原市長** それらの基盤となるコミュニケーションについて、内田様が考えていることは何かありますか。

○**内田講師** 思いを一生懸命相手に伝えることを心掛けています。

○**中原市長** 内田様は、「決断して決意したら、とことんのめり込む力」、「マニュアルがない中で挑戦していく力」、「ピンチはチャンスであると、プラスに変えていく思考力」を持っていると思いますが、これらは全て学校では教えてくれないことだと思います。これらの力が生きていく上での突破口になったと思いますが、それらの力は、誰か先生に教えてもらったということではなく、自ら習得していったような感じがしました。

[その他]

○**戸張副部長兼教育総務課長** 次回の総合教育会議についてお知らせします。10月27日木曜日、午後5時から開催させていただく予定です。内容については、吉川市教育大綱の素案提出及び意見交換を予定しています。

○**篠田教育部長** 以上をもちまして、第4回吉川市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

(閉会 午後6時35分)

吉川市総合教育会議要綱第5条第3項の規定により署名する。

平成28年9月29日

教育委員 西山 祐照

平成28年9月29日

教育委員 神田 美栄子